

インターバンクの声（2015 年 10 月 30 日）

昨日の東京時間未明、米連邦公開市場委員会（FOMC）の声明発表後、ニューヨーク勢の中には市場のクローズが近づいていたこともあって、翌日の第3・四半期 GDP 結果と合わせてもう一度方向性を確認したかった人たちも多かったようだ。しかし、昨晩は結局、ニューヨーク勢が参入して来る前に欧州勢がFOMC結果から米国の年内利上げ観測が再燃していると判断して先にドルを121円台に戻してしまった。米国の第3・四半期 GDP も前期からは大幅減速となったものの市場が予想していた数字から大きく乖離したわけでもなく、発表直後に一旦ドル売りとなったものの大きな反動はなかった。何やら再び見慣れた水準でのレンジ内相場に戻りつつある雰囲気だが、日銀のまさかの追加緩和実施と米国の7－9月期四半期労働コストが大幅上昇するような結果が出てくることには要注意だろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。